

平成29年度

秩父地域専門職連携推進会議 研修会・講演会

最期まで自分らしく生きるために ～主役はわたしです～

平成29年11月11日(土)

熊谷高等技術専門校 秩父分校 講堂

主催:秩父地域専門職連携推進会議、
秩父保健所、埼玉県立大学

後援:ちちぶ医療協議会、埼玉県介護支援専門員協会

専門職連携推進会議構成員の方々(受付・会場担当)



平成29年度 秩父地域専門職連携推進会議 最期まで自分らしく生きるために ～主役はわたしです～ 場末の在宅医のつぶやき

埼玉医科大学国際医療センター 総合診療・地域医療科
社会福祉法人埼玉医療福祉会 丸木記念福祉メディカルセンター
在宅療養支援診療所 HAPPINESS館クリニック

斎木 実

2017年11月11日(土)

熊谷高等技術専門校秩父分校

講演会の様子



研修会の構成

14:00～15:30 斎木実先生による講演会

15:30～16:00 斎木先生を交えた交流会

- ・斎木先生の講演終了後、席の近い者同士で、ランダムにグループを作り、秩父地域の専門職と一般市民とが混合で「私の療養手帳」の様式11-4「わたしらしく人生の最期まで」のページを参照しながら、懇談するグループワークを実施した。
- ・ファシリテーターは、秩父地域専門職連携推進会議のメンバーが担当した。
- ・斎木先生には、各グループを回って頂き、適宜懇談に加わって頂いた。

司会:秩父専門職連携推進会議議長 石原雅哉氏



講師:丸木記念福祉メディカルセンター 斎木 実 医師



交流会(グループワーク)の様子



【グループワークに関する感想】

- ・他の方の意見や年齢的に知らないこと、未経験の事項等を聞くことができ、勉強になった。
- ・一般の方の経験を伺い、聞いたことを周囲に伝える必要性を感じた。
- ・一般の方の生の声を聞いて参考になった。熱意がすごかった。
- ・皆さんとお話しできて嬉しかった。

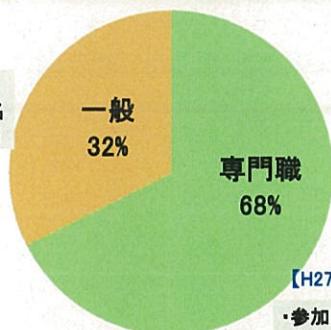
参加者の内訳

- ・参加者総数——51名
- ・アンケート回収——34件（専門職:23, 一般:11）

回収率
67%

H27講演会への参加

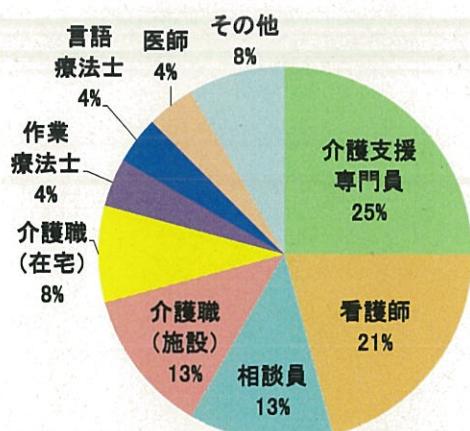
- ・参加していない——9名
- ・参加した——1名
- ・不明——1名



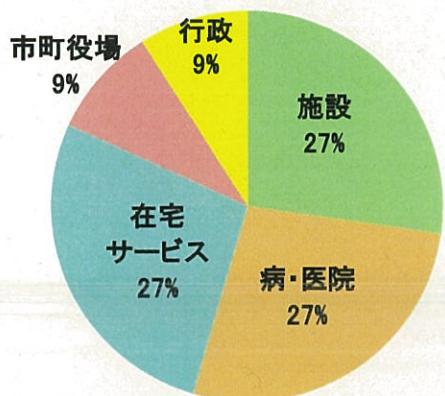
H27講演会への参加

- ・参加していない——12名
- ・参加した——10名
- ・不明——1名

専門職参加者の職種

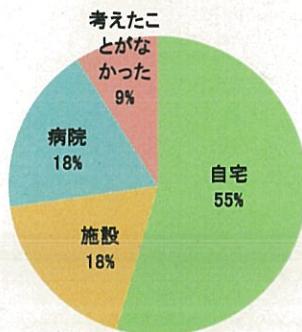


専門職参加者の所属

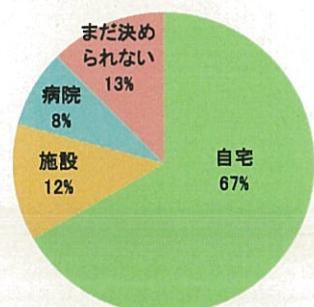


終末期を過ごしたい場所（専門職）

【講演前】

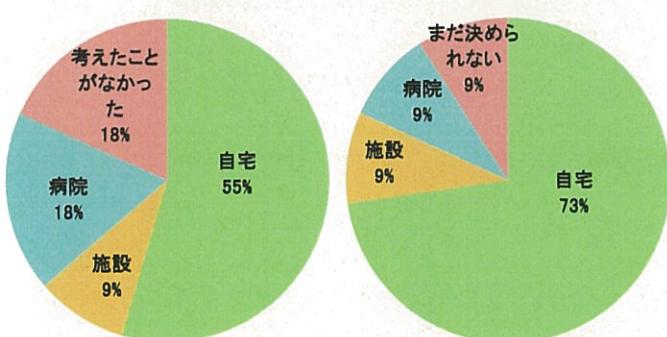


【講演後】

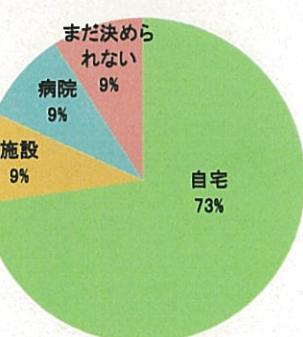


終末期を過ごしたい場所（一般）

【講演前】

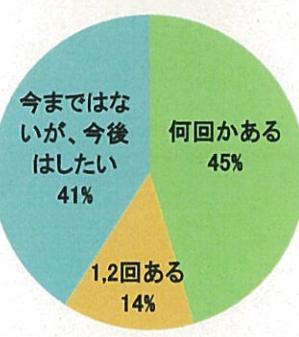


【講演後】

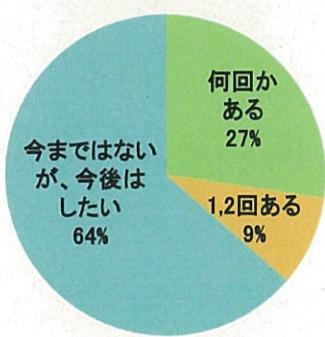


晩年期や終末期に関する話し合いの経験

【専門職】

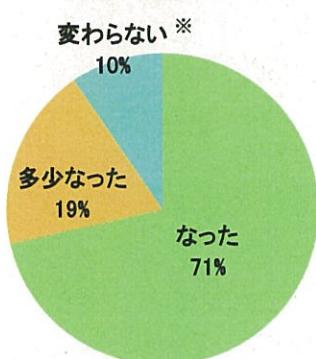


【一般】

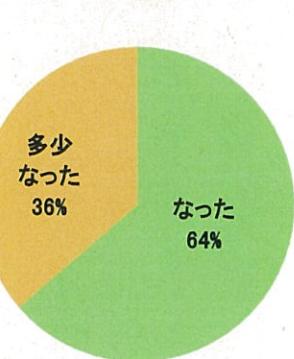


晩年期や終末期について考える契機となりましたか？

【専門職】



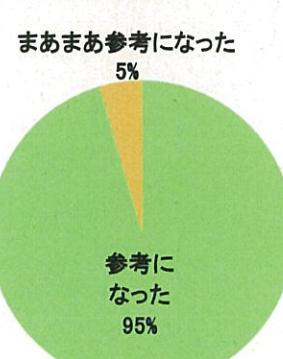
【一般】



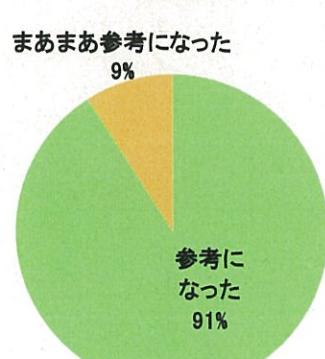
*専門職では、日頃から終末期について考えているため、「変わらない」との回答

研修会・講演会について

【専門職】



【一般】



感想(グループワーク以外)

- ・スライドを見て泣けた。とても勉強になった。
- ・訪問診療に携わっており、仕事の励みになった。
- ・斎木先生のような在宅医がいれば、在宅も選択肢として考えられる。
- ・在宅医療の素晴らしさ、専門職連携の重要性を改めて実感した。
- ・家族と死について話し合いたいと思った。
- ・患者さんやご家族の想いに寄り添って、その人らしく生きる在宅医療を支援できるよう努力していきたい。
- ・最大限の医療を施すことが、必ずしも最善の選択ではないこと、最大限の医療を施さないことに罪悪感を感じる必要のないことを説明できる医師が必要と感じた。
- ・斎木先生のように24時間対応してくれる医師がもっと増えるといいと思う。

晩年期や終末期に関する話し合いの経験について

- ・専門職では、約60%が「何回かかる」「1,2回ある」が、一般では、逆に約60%が「今まではないが、今後したい」と回答していること、専門職でも約40%が「今まではないが、今後したい」と回答していること、以上の2点から、一般の方は勿論、専門職に対しても、継続的な啓蒙活動が必要であり、本講演会がその機会を提供できたと考えられる。

グループワークの実施について

- ・「一般の方の話を聞くことができよかったです」と感じた専門職が多かったようで、一般の方と専門職と一緒にグループワークを実施することで、専門職が学ぶ点も多く、効果的であったことが推測される。
- ・計画段階では、会話が繋がらないことを危惧していたが、各グループとも活発に会話がなされており、一般の方にとっても、自分の想いや経験を斎木先生や専門職に話すことができるいい機会となつたと思われる。

まとめ

参加者

- ・講演会の参加者は51名で、これまでより参加者数は少なめであったが、多くの方に交流会まで参加して頂いた。
- ・アンケート回収は34件(67%)であった。
- ・昨年度も終末期医療に関する講演会を実施してきたが、6割以上は、昨年度の講演会には参加していない方であった。
- ・様々な職種の専門職者の参加が得られた。

終末期を過ごしたい場所について

- ・専門職・一般共に、講演前は 約半数が「自宅」を希望しており、講演後には 専門職で10%、一般で20%、「自宅」希望が増加した。
- ・一般では、講演前に「考えたことがなかった」約20%いたが、講演後は「まだ決められない」は約10%に減少し、講演を聞いて、終末期を過ごす場所について具体的な希望を形成する契機となったと思われる。